

茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果

施策名	総合評価			ページ	取組名	取組評価			主な評価理由（教育委員会所管部分）
	R2	R3	R4			R2	R3	R4	
(1) すべての子どもの育ちを支援する	B	A	A	2	①子どもの健やかな育ちを等しく支援※	a	a	a	奨学金(高等学校等入学支度金)制度において審査方法を一部変更したほか、CSW等の関係機関への周知を依頼した。
					②幼児教育と保育の質と量の充実※	a	a	a	「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、普及を進めた。
(2) 「生きる力」を育む教育を推進する	B	B	B	5	①「確かな学力」の充実	a	a	a	コロナ禍においても工夫しながら授業改善を進め、全国学力・学習状況調査で小学校では過去3番目、中学校では過去2番目の高さの結果となったほか、相馬芳枝科学賞では、参加中学校数、作品応募数、表彰式作品展示会への参加者数ともに増加した。
					②「豊かな心」の醸成	b	b	b	非認知能力育成について、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校の好事例の横展開などにより、アンケート結果は微増となった。概ね順調に推移しているが、茨木っ子力の育成で重要なリアルな体験活動の創出や充実などに取り組む必要があることから「b」評価とする。
					③「健やかな体」の育成	b	b	b	「運動スポーツが好き」という回答割合が小中学校ともに上昇した。小学校給食では地元食材の使用、誤食事故防止等に取り組んだほか、中学校給食では、給食センターの整備・運営事業者との契約締結や配膳室整備のモデル実施等を進めた。概ね順調に推移しているが、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成と食育や健康づくりなどが必要であることから「b」評価とする。
					④学校支援体制の充実	b	b	b	教職員研修における支援教育やICT活用等の充実や、相談業務において時間枠の拡充等を進めた。不登校支援では、訪問、通室、体験学習、オンラインの4つを通しての居場所づくりや、フリースクール等との連携を進めた。業務改善では、教員自身の出勤や時間外勤務を確認できるシステムへ変更した。概ね順調に推移しているが、さらなる支援の充実が必要であることから「b」評価とする。
(3) 魅力ある教育環境づくりを推進する	B	B	B	9	①学校施設の計画的な整備・充実	b	a	b	国の補助金等を効果的に活用し、便所改修、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施した。教職員のICT機器の活用では、校務等様々な場面で進めたほか、授業での活用に向けて操作研修や好事例の共有、環境整備を行った。概ね順調に推移しているが、授業での活用意識をさらに高めていく必要があることから「b」評価とする。
					②学校・家庭・地域の連携の推進※	b	b	b	放課後子ども教室は、ガイドラインを改訂して校区の実態に合わせることで実施日数が増加した。見守り活動や通学路の安全点検では、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施し、安全確保に努めた。（順調に推移しているが、夏季休業期間預かり事業で指導員確保等に課題があることから「b」評価とする。）
(4) 青少年の心豊かなたくましい成長を支援する	B	B	B	12	①青少年健全育成の推進	b	b	b	ほっとけん！アワードによる優良事例の横展開、高校生や大学生が小学生向け体験活動を企画するイベント実施、青少年の育成者を対象としたスマホ・SNSトラブル等の研修の実施など、地域での顔の見える関係づくりや異年齢交流、自己有用感向上を図った。概ね順調に推移しているが、地域団体の行事実施数の増加を図る必要があるため「b」評価とする。
					②青少年の体験活動の充実※	b	b	b	上中条青少年センターや青少年野外活動センターにおいて、様々な体験活動を展開することで、利用者の増加に繋がった。こども会では、加入促進を図るため小学生等を対象に「レクリエーションのつどい」を実施した。概ね順調に推移しているが、こども会加入率が低下したため、活動の継続と加入促進への支援策を講じる必要があるため、「b」評価とする。
(5) 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	B	B	B	16	①成人の学習の推進	b	b	b	識字・日本語教室事業では、オンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れたほか、日本語教育や多文化共生について理解を深め、人権意識の醸成を図るための指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得した。概ね順調に推移しているが、多文化共生事業の一環として、市内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とする。
					②公民館活動の推進	b	b	a	公民館講座、講習会等では、募集人数や開催回数の基準の緩和など、関係者の創意工夫による地域の実情に応じた実施により受講者数・開催数は増加したほか、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、民間事業者と連携した現代的課題（SDGs等）に係る講座・講習会等の情報を共有した。
					③図書館サービスの充実	b	b	a	中央図書館30周年事業や子ども読書活動推進事業の実施や、おにクルぶっくぱーく開館に向けたクラウドファンディングやブックトラベル等の開催により新施設のPRに努めたほか、ホームページからのパスワード申請や電子書籍の予約確保メールの開始により利便性向上につながったことにより、貸出点数が回復した。
(6) 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	C	B	B	20	①歴史遺産の保存・継承	c	a	b	文化財資料館及びキリシタン遺物史料館では、中止していた活動を徐々に再開させたほか、文化財資料館内に郷土史料室を開室した。埋蔵文化財については出土した遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めた。概ね順調に推移しているが、コロナ禍前の活動再開に向けてより一層取組を推進する必要があるため「b」評価とする。

※市長部局の事業を含む取組

【評価の見方】

総合評価

- A：施策の方向性に沿って順調に進行している。  
全ての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がaである。
- B：施策の方向性に沿って概ね順調に進行している。  
①すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がbである。  
②一部の取組の評価がcであるが、5割以上はaまたはbである。

取組評価

- a：順調に進行している。
- b：概ね順調に進行している。
- c：進行にやや遅れがある。
- d：進行に大幅な遅れがある。

- C：施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。  
A・B・D以外
- D：施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。  
7割以上の取組の評価がdである。

第5次茨木市総合計画  
令和4年度施策評価（案）  
（茨木市教育大綱部分抜粋）



次なる  
茨木へ。

茨木には、次がある。

※ 学識意見者の意見を踏まえ記載内容を現在調整中であり、変更となる場合があります。

## 【 まちの将来像2 】

次代の社会を担う子どもたちを育むまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する			
3	対応するSDGs					
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てできる環境を整えます。				
5	評価者等			部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)		こども育成部	部 長	山 寄 剛 一
		施策主担当課		こども育成部	こども政策課	—
		施策関係課		子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課		
6	施策内の取組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進			
		2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援			
		2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実			

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しました。産前産後の生活に関する情報提供・サービスの調整等、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めました。</p> <p>子どもの健やかな育ちに向けた支援のうち、ひとり親家庭の自立支援については、より良い条件での正規雇用や安定した就業機会確保に向けて学び直しを希望するひとり親家庭の親子を対象に「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を実施しました。また、児童虐待対応については、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制の強化を図るとともに、関係機関との連携を強化しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度については、審査方法を一部変更するとともに中学3年生の保護者への申請案内の直接配付に加え、CSW等の関係機関にも制度周知を依頼しました。</p> <p>幼児教育と保育の質と量の充実に向けて、私立保育所の新設のほか、公私立幼稚園の認定こども園化などにより保育の受入体制の確保に努め、待機児童0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、94名の保育士等確保につながりました。</p> <p>また、茨木っ子プランネクスト5.0の3年目として、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、普及を進めることができました。</p> <p>以上のことから、妊婦面接実施率や待機児童数等について評価指標の目標値を達成するなど、全体としては施策の方向性に沿って順調に進行していることから、総合評価は「A」とします。</p>		課題①	妊婦面談を通して顔が見える関係を築き、利用者の目線に立った母子保健と子育ての一体的な支援の提供ができるよう、利用者の満足度を評価することも取り入れ、さらに支援を充実させる取り組みが必要です。	
			課題②	児童手当や児童扶養手当の給付について、所得制限の撤廃、対象者の拡大、支給額の改定など、国の動向を注視し、制度改革に対応する必要があります。	
			課題③	要保護・要支援家庭への支援の充実を図るため、ケースに応じた効果的な支援方針を策定するとともに、関係機関と連携して、着実な支援を実施していく必要があります。	
			課題④	今後もしばらくは増加が見込まれる保育需要に対応するとともに、その後の保育需要も見極める必要があります。	
			課題⑤	保育士・保育所支援センターによる保育施設と保育士のマッチングや保育士奨学金返済支援事業補助金の周知・活用等により保育士確保の目標値を達成しましたが、さらなる人材確保に向け施策の検討が必要になります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する			

## 3 施策内の取組の評価

1	取組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名 村上 友章	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	妊娠・出産・子育ての切れ目のないサポートの提供や必要な子育て支援サービスが有効に活用されるなど、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しています。産前産後の生活に関する情報提供・サービスの調整等、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めました。引き続き切れ目のない支援に取り組む必要はあるものの、施策の方向性に沿って順調に推移していることから、「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	妊婦面接の実施率	%	↗	99.9	100	100	

1	取組	2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名 東井 芳樹	
3	関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、学務課					
4	目標 (後期基本計画より)	社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとする様々な状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ひとり親家庭の自立支援として、より良い条件での正規雇用や安定した就業の機会確保に向けて、学び直しを希望するひとり親家庭の親子を対象に「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を実施しました。児童虐待対応については、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制の強化を図るとともに、関係機関との連携を強化しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度では、審査方法を一部変更するとともに、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付に加え、CSW等の関係機関にも制度周知を依頼しました。以上のように施策方向性に沿って順調に進行しており「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	奨学金(高等学校等入学支度金)支給人数	人		163	集計中	-	
	相談から支援につながった割合	%	→	100	100	95(各年度)	
	子育て短期支援事業の利用日数	日	↗	34	58	133(R4)	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

1	取組	2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	保育幼稚園総務課	課長名	中路 洋平
3	関係課	保育幼稚園事業課、学校教育推進課					
4	目標 (後期基本 計画より)	待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	待機児童については、私立保育所の新設のほか、公私立幼稚園の認定こども園化などにより保育の受入体制の確保に努め、待機児童0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、94名の保育士等確保につながりました。また、茨木っ子プランネクスト5.0の3年目として、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、普及を進めることができました。以上のように、施策の方向性に沿って順調に推移していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	待機児童者数(各年度4月1日時点)	人	↘	0	0	0(R4)	
	保育現場に送り出した保育士等の数	人	↗	98	94	60(R4)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「A」は妥当であるとする。</li> <li>・それぞれの取組のほとんどの参考指標の数値は過年度を上回っており、そうでないものも目標値を大幅に上回っており、順調な施策の展開がなされていることを表している。</li> <li>・今後は、成果に挙げられている「サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めた」のみならず、サービスの充実や利用者満足度を指標化するなどして、客観的な評価が行なわれる方策も考えられたい。</li> </ul>

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」と、その基盤となる「非認知能力」の育成を進め、これからの社会を生き抜く資質・能力を育むことを目指します。また、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通じた信頼される学校づくり」を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	学校教育部	部 長	青木 次郎
		施策主担当課	学校教育部	学校教育推進課	—
		施策関係課	学務課、教職員課、教育センター		
6	施策内の取組	2-3-1	「確かな学力」の充実		
		2-3-2	「豊かな心」の醸成		
		2-3-3	「健やかな体」の育成		
		2-3-4	学校支援体制の充実		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題			
2	「確かな学力」の充実については、コロナ禍においても児童・生徒が安心して学べる環境づくりや「話し合う活動」等について工夫しながら授業改善を進め、全国学力・学習状況調査結果において、昨年度に引き続き上昇傾向を示しました。 「豊かな心」の醸成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の普及、研修の実施、児童生徒への日常的な言葉かけなどにより非認知能力を育成する取組を進め、茨木っ子アンケートの結果は横ばいから微増となるなど、コロナ禍においても一定の効果がありました。 「健やかな体」の育成については、児童・生徒意識調査において、「運動スポーツが好き」という回答割合が小中学校ともに上昇しており体力向上等への取組の成果と捉えています。 また、小学校給食では生産者等と協議して地元食材の使用に努めたほか、食物アレルギー対応範囲の拡充の課題検討や、誤食事故防止に取り組みました。中学校給食では全員給食開始に向け、PFI手法による給食センターの整備・運営事業者の選定及び契約締結を行うとともに、中学校配膳室の整備をモデル実施するなど計画的に進めました。 学校支援体制の充実については、茨木市不登校児童・生徒支援室において、訪問、通室、体験学習、オンラインの4コースを通して居場所づくりやフリースクール等との連携を進め、不登校支援に取り組みました。また、業務改善については自身の出退勤時刻や時間外勤務時間を確認できるシステムへと変更し、教職員の意識を高めることができました。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断していますが、茨木っ子力の育成において重要なリアルな体験活動の充実、児童・生徒理解への日常的な取組の継続、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成などに一層取り組む必要があることから総合評価は「B」とします。		課題①	日常より子ども理解に努めるとともに、小中学校ともに、体験活動の充実を図り、茨木っ子力(非認知能力)に育成にむけた取組の充実が必要です。	
			課題②	いじめや不登校への未然防止、早期発見、早期解決をすすめ、関係機関との連携を行うとともに、学級集団づくりや人間関係づくり等、すべての児童生徒にとって学校が安心して過ごせる居場所の確保に努める必要があります。	
			課題③	体力向上と合わせて、食育、運動習慣の定着、健康づくりなどの取組を進め、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成を進める必要があります。	
			課題④	「ふれあいルーム」を中核とし、向陽台高等学校をはじめ、近隣の大学、フリースクール、民間団体等との相互連携を充実させていく必要があります。	
			課題⑤		

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する			

### 3 施策内の取組の評価

1	取組	2-3-1 「確かな学力」の充実					
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学
3	関係課	教育センター					
4	目標 (後期基本計画より)	小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	<p>確かな学力の充実については、コロナ禍においても児童生徒が安心して学べる環境づくりや「話し合う活動」等について工夫しながら授業改善を進め、全国学力・学習状況調査において、小学校では過去3番目、中学校では過去2番目の高さの結果となるなど、昨年度に引き続き上昇傾向を示しました。また、相馬芳枝科学賞については、中学校の参加が増え、作品応募数、表彰式作品展示会への参加者数ともに増加しました。</p> <p>以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	全国学力・学習状況調査の平均正答率(小学校)	全国を1	↗	1.039	1.042	1以上 (R4)	
	全国学力・学習状況調査の平均正答率(中学校)	全国を1	↗	1.022	1.059	1以上 (R4)	

1	取組	2-3-2 「豊かな心」の醸成					
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>非認知能力育成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の横展開、研修の実施、児童生徒への日常的な言葉かけなどにより取組を進め、全児童生徒を対象とした茨木っ子アンケートの結果は横ばいから微増となるなど、児童生徒の学びに影響が大きいコロナ禍においても一定の効果がありました。</p> <p>以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、茨木っ子力の育成において重要なリアルな体験活動の創出や充実、児童生徒の理解への日常的な取組の継続などに取り組む必要があることから「b」評価とします。</p>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	自分力(小学校)茨木っ子アンケートより	点	↗	7.9	7.9	8.1 (R4)	
	自分力(中学校)茨木っ子アンケートより	点	↗	7.8	8.0	8.1 (R4)	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

1	取組	2-3-3	「健やかな体」の育成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学
3	関係課	学務課					
4	目標 (後期基本計画より)	小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	児童生徒意識調査において、「運動スポーツが好き」という回答割合が小中学校ともに上昇しており体力向上等への取組の成果と捉えています。小学校給食では生産者等と協議して地元食材の使用に努めたほか、食物アレルギー対応範囲の拡充の課題検討や、誤食事故防止の取り組みました。中学校給食では全員給食開始に向け、PFI手法による給食センターの整備・運營業者の選定及び契約締結を行うとともに、中学校配膳室の整備をモデル実施するなど計画的に進めました。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成と元気力向上のための食育や健康づくりなどが必要であることから「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	新体力テスト体力合計点(小・中平均)	全国を1	↗	1	1	1以上(R4)	
	児童・生徒意識調査(運動スポーツが好き)	肯定率(%)	↗	82	84	90(R4)	
	基本とする食物アレルギー対応範囲の拡充	種類	↗	4	4	4(R4)	

1	取組	2-3-4	学校支援体制の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	教育センター	課長名	新川正知
3	関係課	教職員課					
4	目標 (後期基本計画より)	教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。さらに、教育委員会による支援や学校の業務改善が進むことで、教員の時間外勤務が減少し、児童・生徒に向き合う時間が確保され、日々の教育活動の充実につながります。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	教職員研修については、支援教育やICT活用など内容を充実し回数を増やしました。相談業務については、相談時間枠の拡充等相談しやすい環境づくりを進め、不登校支援については、茨木市不登校児童・生徒支援室において、訪問、通室、体験学習、オンラインの4コースを通して居場所づくりや、フリースクール等との連携を進めました。業務改善については、自身の出退勤時刻や時間外勤務時間を確認できるシステムへと変更し、教職員の意識を高めることができました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、児童・生徒、保護者、教職員への支援を充実させる必要があることから「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	教職員1人あたりの研修参加回数	回	↗	1.8	2.3	3(R4)	
	相談員一人あたりの相談件数 (心理・電話・言語・不登校・発達相談)	件/人	↗	80	90	90(R4)	
	不登校児童・生徒支援室への入級希望者数	人	↗	76	114	80(R4)	

## 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であるとする。</li> <li>・取組2-3-1「確かな学力」の充実については、参考指標は前年度を上回っており、かつ目標値も上回っており、施策の効果が順調にみられる取組となっており、評価できる。</li> <li>・取組2-3-2「豊かな心」の醸成や取組2-3-3「健やかな体」の育成も合わせて、これらの取組の土台は、取組2-3-4学校支援体制の充実に負うところが多いと考えられる。とりわけ、近年課題となっている教員の負担を軽減し、本来業務に時間を割けるようになるかが大きな課題とされているが、システム変更による意識の高まりのみに期待しているような記述となっており、この点への注力が必要となるのではないだろうか。</li> </ul>

<b>施策評価シート</b>
----------------

## 1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する		
3	対応するSDGs	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	教育総務部	部 長	小田佐衣子
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課	学童保育課、施設課、学校教育推進課、教育センター		
6	施策内の取組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実		
		2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進		

## 2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。          B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。          C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。          D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>学校施設の整備については、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることができました。          教職員のICT機器の活用については、校務等様々な場面で進んでおります。授業での活用についても、操作研修や好事例の共有、環境整備を行いました。          放課後子ども教室については、代表者連絡会や研究会で情報共有を図り、コロナ禍でも活動が円滑に実施できるようガイドラインの改訂を行い、校区の実態に合わせることで、実施日数が増加しました。          家庭教育関連事業については、引き続きオンラインを活用するなど、コロナ禍においても順調に実施し、参加者数の増に繋がりました。          見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施し、安全確保に努めました。          学童保育については、教育委員会と調整し、場所の確保に努め、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。          以上のように概ね順調に推移していますが、教職員のICT機器の活用について、授業におけるICT機器の活用意識を高めしていく必要があること、また、学童保育については、夏季休業期間前より事業で学年拡大を試行実施した際に、指導員確保等に課題があり、今後の方向性を検討する必要があることから「B」評価とします。</p>		課題①	学校施設の整備には多額の経費を要するため、国庫補助金を獲得するとともに経費の平準化を図り、計画的に進める必要があります。また、資材不足、物価高騰等に対する対応が課題となっています。	
			課題②	教職員へのICT機器を活用した授業づくり支援や授業力向上の取組を工夫・改善する必要があります。	
			課題③	放課後子ども教室については、コロナ禍による中止と再開を繰り返していたことにより、スタッフが不足しており、代表者連絡会等で情報交換を図りながら、新たな人材確保の手法を検討をしていく必要があります。	
			課題④	家庭教育関連事業については、家庭教育学級や親学びサポーターのなり手不足などから、将来に向けて新たな実施手法の検討が必要です。	
			課題⑤	学童保育の場所の確保は、教室借用や施設設置が困難な学校もあり民間事業者による施設設置促進等が必要です。学年拡大は場所と指導員の確保等の課題が明確になったため今後の方向性を検討する必要があります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する

## 3 施策内の取組の評価

1	取組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	施設課	課長名 浅野 貴士	
3	関係課	教育センター					
4	目標 (後期基本計画より)	学校施設・設備等が、計画的に更新されることにより、利便性や機能性を持つ、快適な教育環境で効果的な児童・生徒の学習が行われています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	学校施設の整備につきましては、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることが出来ました。 教職員のICT機器の活用については、校務等様々な場面で進んでおりますが、授業での活用につきましては、操作研修や好事例の共有、環境整備を行ったものの、活用意識を高めることにつながらなかったことは課題ととらえています。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、授業でのICT機器の活用を上げていく必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
2系統目の便所改修工事の完了の率	%	↗	41	55	100 (R7)		
授業でICT機器を活用する教員の率	%	↗	88	82	90 (R4)		

1	取組	2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 吉崎 幸司	
3	関係課	学童保育課、学校教育推進課					
4	目標 (後期基本計画より)	学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	放課後子ども教室については、コロナ禍で未実施の期間がある中、ガイドラインを改訂し、校区の実態に合わせることで、実施日数の増加に繋がりました。家庭教育関連事業については、コロナ禍においても順調に実施できました。見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施し、安全確保に努めました。学童保育については、教育委員会と調整し、場所の確保に努め、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。以上のように順調に推移していますが、夏季休業期間預かり事業で学年拡大を試行実施した際に、指導員確保等に課題があり、今後の方向性を検討する必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
放課後子ども教室延べ実施日数	日	↗	200	1,167	800 (R4)		
家庭教育関連事業の参加者数	人	↗	1,208	1,506	1,300 (R4)		
学童保育待機児童数(一斉受付申請分)	人	→	0	0	0 (R4)		

## 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考えます。</li> <li>・評価理由にも指摘されているように、取組2-4-1学校施設の計画的な整備・充実には、多額の経費を必要とするものであることと合わせて、学校施設が地域における重要な社会資本であることから、ユーザーである子ども、地域のニーズを取り込んだ整備が求められる。</li> <li>・取組2-4-2学校・家庭・地域の連携の推進については、学童保育の待機児童がなかったことは評価できるが、課題として挙げられている対象の拡大については、早急に対応することが求められる。なお、コロナ禍にあつて、放課後子ども教室の実施日数や家庭教育関連事業の参加者数が目標値を上回った点は、大きく評価できる。引き続き、三者の連携を強めて行かれることを期待したい。</li> </ul>

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する			
3	対応するSDGs					
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。				
5	評価者等			部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)		教育総務部	部 長	小田 佐衣子
		施策主担当課		教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課		こども政策課		
6	施策内の取組	2-5-1	青少年健全育成の推進			
		2-5-2	青少年の体験活動の充実			
		2-5-3	若者の自立支援			

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	<b>B</b>	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。                  B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。                  C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。                  D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
		評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R4年度末現在の施策の主な課題		
2	<p>青少年健全育成の推進については、「ほっとけん！アワード」、「青少年による青少年のためのイベント」、青少年指導者向けの研修等の事業を実施しました。これらの実施により、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくり、イベントに参加した子ども・生徒・学生の異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供、青少年指導者の育成を推進できました。</p> <p>青少年の体験活動の充実については、上中条青少年センター主催事業での子どもセミナーや、青少年野外活動センターでの「少人数・短期間」のキャンプ等の実施により、コロナ禍においても様々な体験活動の機会を提供し、参加者・利用者も増加しました。</p> <p>ユースプラザでは、子ども・若者を取り巻く環境が複雑・多様化しているため、改めて事業者を選考した結果、「生きていく力」を育む取組が提案されるなど、支援の充実を図りました。</p> <p>こども会では、加入率が低下傾向にあることから、小学生等を対象に「レクリエーションのつどい」を実施し、加入促進に繋げることができました。また、コロナ禍以前の事業を実施できたことにより、こども会活動の継続につながりました。</p> <p>若者の自立支援については、ヤングケアラーを早期に発見し適切な支援や見守りにつなげるため、市内の支援者を対象としたヤングケアラー実態調査を実施し、具体的な支援策の検討を行いました。</p> <p>また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに市内高校1校と市内すべての小学校が構成機関として加わり、地域と学校が連携し、様々な課題を抱える児童・生徒をより中長期的に支援することが可能となりました。</p> <p>以上のことから、コロナ禍でも工夫して事業を推進し、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、地域団体の行事実施数の増加やこども会の活動継続・加入促進への支援策を引き続き講じる必要があるため、「b」評価とします。</p>		課題①	SNS等を起因とするトラブルから青少年を保護するために、最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて、引き続き、周知啓発する必要があります。	
			課題②	体験活動は、子どもたちの成長の過程において大変重要な意義があることから、引き続きその充実に努める必要があります。	
			課題③	市こども会育成連絡協議会と連携し、引き続き、こども会活動の継続と加入促進につながる支援策を講じる必要があります。	
			課題④	居場所での体験や支援の連続性、関係機関との連携を強化し、早期支援、早期困難解消を図るため、ユースプラザの開所日を拡充する必要があります。	
			課題⑤	ヤングケアラー実態調査の結果、小中学校やCSWなどの関係機関との連携や、相談窓口の充実が求められていることから、社会全体で支援する体制の強化を図る必要があります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

## 3 施策内の取組の評価

1	取組	2-5-1	青少年健全育成の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	各地域で青少年を対象にした行事等が活発に実施され、地域の方との関わりが増えることにより、地域の子どもを地域で見守り、育てるという市民意識が醸成されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	補助金交付団体数及び青少年が行事の一部を担当した割合は前年度から増加したほか、青少年向け行事の好事例を表彰する「ほっとけん！アワード」により優良事例の横展開を図るなど、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくりを進めました。また、高校生や大学生が小学生向け体験活動を企画する「青少年による青少年のためのイベント」により異年齢交流や自己有用感向上を図りました。さらに、青少年の育成者を対象に、青少年との関わり方やスマホ・SNSトラブルを学ぶ研修を実施しました。以上のことからコロナ禍でも工夫し事業を推進しましたが、地域団体の行事実施数の増加を図る必要があるため「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値	目標値(年度)
						R3年度	R4年度
	茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	↗	51	55	80 (R4)	
	青少年が行事の一部を担当した割合	%	→	74	77	75 (R4)	

1	取組	2-5-2	青少年の体験活動の充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課	こども政策課					
4	目標 (後期基本計画より)	青少年の活動拠点である上中条青少年センターや青少年野外活動センターのほか、ユースプラザなどでの体験活動を通して自尊感情や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	上中条青少年センター主催事業では、様々な体験活動の機会を提供しました。青少年野外活動センターでは、様々な体験活動を展開することで、利用者の増加につながりました。ユースプラザでは、子ども・若者を取り巻く環境が複雑・多様化しているため、改めて事業者を選考した結果「生きていく力」を育む取組が提案されるなど、支援の充実を図りました。こども会では、コロナ禍以前の事業を実施できたほか、加入促進を図るため小学生等を対象に「レクリエーションのつどい」を実施し、加入に繋がりました。以上のことから、コロナ禍でも工夫し事業を実施しましたが、こども会加入率が低下したため、活動の継続と加入促進への支援策を講じる必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値	目標値(年度)
						R3年度	R4年度
	上中条青少年センター主催事業参加者数	人	↗	855	871	900 (R4)	
	こども会加入率	%	→	26	22	26 (R4)	
	青少年野外活動センター年間利用人数	人	↗	4,859	6,816	6,000 (R4)	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

1	取組	2-5-3	若者の自立支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名 東井芳樹	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	支援が必要な時にどこに相談すればよいか、様々な支援者・事業者・市民が知っています。それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。相談者・支援者ともに負担の少ない機関連携が行われ、若者の自立に向けた切れ目のない支援が実現しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	家事や家族のケア等を日常的に行っていることにより、本来社会が守るべき子どもの権利が守られていないヤングケアラーを早期に発見し適切な支援や見守りにつなげるため、市内の支援者を対象としたヤングケアラー実態調査を実施し、具体的な支援策の検討を行いました。また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに市内高等学校(1校)と市内すべての小学校が構成機関として加わったことで、様々な課題を抱える児童・生徒を地域と学校が連携し、より中長期的な支援が可能となりました。以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しているため「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	スモールステップの段階(自立度)アップ率《改善率》	%	↗	97	98	95 (R6)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考えます。</li> <li>・全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加できているのか、イベントや研修が行なわれているが、全ての青少年のニーズを掘り起こし、それを満たしていくのは容易ではない。そのようななか、ヤングケアラーについての実態調査に基づいて支援策の検討を行なったのは評価できる。今後ヤングケアラーの支援は、単独部署や施策で完結するものではないため、結果を共有するとともに具体の支援につなげて欲しい。</li> <li>・コロナ禍であっても参考指標が伸びたものがある一方で、そもそも横ばいをめざしていたことも会については、加入率が下がってしまっている。子どもにとって、身近な地域の団体であるが、その背景や求められていることについての調査や検討が必要となっているのではないだろうか。</li> </ul>

## 【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人の学習の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題			
生涯学習推進体制の整備については、「きらめき講座」の対面実施に加え、生涯学習センターの一部講座のオンデマンド配信を実施しました。さらにデジタルデバイドの解消に向けて、スマートフォン等を活用した講座や障害者の方向けのスマホ講座等を開催した他、生涯学習関連施設との連携については、関係機関のきらめきフェスタに参画等により推進しました。 生涯学習についての普及啓発の推進については、Next Stageの情報掲載数はコロナ禍における事業実施の工夫等により前年度の目標値を上回りました。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めました。 成人の学習の推進については、識字・日本語教室事業はコロナ禍において、オンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れ、実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得することができました。 公民館活動の推進については、公民館講座等は感染症対策を講じ、募集人数や開催回数の基準を緩和する等、受講者数・開催数は増加しました。また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、コロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題(SDGs等)に係る講座・講習会の情報を共有することができました。 図書館サービスの充実については、中央図書館30周年事業や子ども読書活動推進事業を、関係団体等との協働により実施し、利用促進を図りました。また、おにクルぶっくばーく開館に向け、各種連携行事や寄附事業を行い新施設のPRに努めたほか、図書館ホームページからのパスワード申請を可能とするなど、利用者の利便性向上につなげました。 以上から、おおむね各施策の方向性に沿って進行していますが、引き続き学習環境の充実や様々な主体との連携、講座等の情報提供、DXの推進が必要であるため、「B」評価とします。		課題①	引き続き、「茨木市生涯学習推進計画」の方向性に基づき、市民ニーズに沿った生涯学習を推進し、また、インターネット等を利用したより効果的な学びに繋げるため、学習環境の更なる充実が必要です。		
		課題②	識字・日本語教室事業について、多文化共生事業との連携を進めていく必要があります。		
		課題③	現代的課題・地域課題の解決に向けた取組の充実に向けて、民間事業者等のノウハウを生かした講座の開催等についてさらなる情報提供を図る必要があります。		
		課題④	中条図書館のおにクル移設を円滑に進めるとともに、施設の特徴を活かした連携事業や運営を行う必要があります。		
		課題⑤	第3次子ども読書活動推進計画に基づき、乳幼児期から途切れることなく、発達段階に応じた取組を推進し、非来館型サービスの充実等DX推進により、市民の利便性向上や利用促進に取り組む必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

## 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	時間や場所に捉われない学びの場の提供として、100種類以上の講座を展開する「きらめき講座」の対面実施や生涯学習センターの一部講座のオンデマンド配信等を実施し、学習の機会の提供として、ICTに不慣れな方に対して、タブレットやスマートフォンを活用した講座や障害者の方を対象とした初心者向けスマホ講座を開催しデジタルデバイドの解消に努めました。また、生涯学習関連施設との連携については、関係機関のきらめきフェスタ参画などにより推進しました。 以上のことから施策の方向性に沿って、概ね順調に推移していますが、新たな主体との連携講座を検討する必要があるため「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値	目標値(年度)
						R3年度	R4年度	

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながる多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	生涯学習情報の発信については、Next Stage情報掲載数はコロナ禍における事業実施の工夫等により前年度よりも増加し目標値を上回りました。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移していますが、SNSを活用したより効果的な情報発信について検討する必要があるため「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値	目標値(年度)
						R3年度	R4年度	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		

1	取組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	識字・日本語教室事業について、コロナ禍においてもオンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れ、実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得することができました。				
			以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できましたが、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
			R3年度	R4年度			
社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,007	973	1,100 (R4)		

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	公民館講座、講習会等については、コロナ禍においても感染対策を講じるとともに、募集人数や開催回数の基準を緩和するなど、関係者の創意工夫のもと地域の実情に応じて実施したことにより、受講者数・開催数は増加しました。				
			また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、コロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題(SDGs等)に係る講座・講習会の情報を共有することができました。				
		以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行し、目標を達成したことから「a」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)		
			R3年度	R4年度			
小学校区公民館講座受講者数	人	↗	1,780	1,982	1,800 (R4)		
小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	268	347	280 (R4)		
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組によるもの	回	↗	26	45	32 (R4)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	中央図書館30周年事業や子ども読書活動推進事業を、ボランティアや関係団体等との協働により実施し、図書館の利用促進を図りました。また、おにクルぶっくぱーく開館に向け、関係部署と連携した行事やブックトラベルの開催、クラウドファンディングによる寄付事業を行い、新施設のPRに努めました。 図書館ホームページからのパスワード申請を可能にし、電子書籍の予約確保メールの送信を開始することで、利用者の利便性向上につながりました。これら図書館サービスの充実に努め、貸出点数も回復し、順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	資料貸出点数	点	↗	3,236,933	3,570,988	3,600,000 (R5)	
	蔵書冊数	冊	→	1,263,106	1,266,627	1,250,000 (R5)	

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策の現状と課題」において、新しい生涯学習推進計画のもと、多岐にわたる分野で適切に生涯学習事業が実施されており、一定の成果を上げていることから、総合評価「B」は妥当である。</li> <li>・本市の行政課題を的確に把握し、そのための生涯学習施策を実施している点で、課題①～⑤及び総合評価を一ランク上げて良いが、さらなる成果を目指すという点で現状の評価が良い。</li> <li>・取組の評価で、「きらめき講座」でのオンデマンド配信等が情報弱者と呼ばれる人たちへの配慮やデジタル・ディバイド対策として実施されており、ユニバーサルアクセスの実現に向けてさらに進めていただきたい。</li> <li>・成人学習の推進として、「リスキリング」に係る事業が記載されていないが、本市における意識調査でも学習ニーズが高いことから、生涯学習センターや公民館等の今後の事業計画において検討されたい。</li> <li>・図書館サービスの充実やおにクルぶっくぱーく開館に向けた取組は「a」評価となっており、さらなる事業振興を期されたい。</li> </ul>

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	-
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館		
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>多様な主体の協働については、コロナ禍で公演等を開催しにくくなか、芸術団体等の活動等への補助である文化振興補助制度を活用し、芸術団体や芸術家には活動の場を、市民には鑑賞の場を提供しました。文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりに向け、市民会館跡地エリアについては、おにクル及び芝生広場の管理を行う指定管理者を選定し、11月の開館に向け開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等について調整を進めました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベントにより幅広い年代への周知に努め、富士正晴の絵を使用した一筆箋等の作成による魅力発信を進めました。未来へ向けた文化芸術の担い手の育成に向け、子どもたちが芸術文化を楽しむ機会の充実については、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会となり定員を上回る応募者がある美術教室「maru」の通年実施、児童作品を展示する「maruのじかん展」の開催、子どもと保護者を対象としたワークショップ等のコロナ禍以前の水準での実施等機会の拡充に取り組みました。</p> <p>歴史遺産の保存・継承に向けては、文化財資料館及びキリシタン遺物史料館については、コロナ禍で中止していた団体見学等を再開し、文化財資料館内に開室した郷土史料室では地域の文献史料の収集・整理等を進めました。埋蔵文化財については発掘調査で出土した遺物の整理及び台帳作成等を進めました。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成に向けては、茨木市の文化的特性を活かした取組に関しては、川端康成文学館の入場者数が回復しただけでなく、夏休み企画展など様々な取組を進めました。</p> <p>以上から、おおむね各施策の方向性に沿って進行していますが、引き続き市民等との協働・連携事業の実施、開館記念式典等への市民参画、「maru」の事業検討、文化財の保護の取組への理解の促進や魅力に触れる機会の提供、文学に関する訴求力のある取組等が必要であるため、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	多様な主体の協働については、おにクル開館を見据えて、市民や芸術団体等と開館の機運を高める協働・連携事業を実施する必要があります。	
			課題②	おにクルの開館記念式典やプレ事業の実施にあたっては、これまでの取り組みを踏まえ、市民にも参画いただける手法について検討を行う必要があります。	
			課題③	「maru」については、ニーズに的確に対応し、持続的な実施に向けた課題整理と事業検討を強化する必要があります。	
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていくとともに、多くの市民に本市の文化財の魅力に触れていただく機会を提供する必要があります。	
			課題⑤	川端康成文学館については、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要で	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

## 3 施策内の取組の評価

1	取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の影響により公演等の文化芸術活動を開催しにくい状況のなか、芸術団体等の活動や公演への補助である文化振興補助制度を活用し、芸術団体や芸術家には活動の場を、市民には鑑賞の場を提供することができました。 以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、市が芸術団体等と協働・連携して実施する事業を、さらに増加させる必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
市が他の主体と協働・連携して実施する事業数	件	↗	17	17	18(R6)		
「次なるわたしへ」文化振興補助制度申請件数	件	↗	9	15	—		

1	取組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子	
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市民会館跡地エリアについては、おにクル及び芝生広場の管理を行う指定管理者を選定し、11月の開館に向け開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等について調整を進めました。文化振興事業については、クリエイトセンターの喫茶食堂スペースを様々な団体の交流の場とし、団体間の連携の一助としました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベントにより幅広い年代への周知に努め、富士正晴の絵を使用した一筆箋と冊子「富士正晴と関西の作家第3集」の作成による魅力発信を進め、来館者数も回復しました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
市立ギャラリー入場者数	人	↗	11,216	18,163	16,000(R6)		
文化振興イベント参加者数	人	↗	7,911	12,925	24,000(R6)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>子どもたちが芸術文化を楽しむ機会の充実については、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会となり定員を上回る応募者がある美術教室「maru」の通年実施、児童作品を展示する「maruのじかん展」の開催、子どもと保護者を対象としたワークショップ等のコロナ禍以前の水準での実施等機会の拡充に取り組みました。</p> <p>以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、「maru」については、ニーズに的確に対応し、持続的な実施に向けて課題の整理と事業検討を継続して進める必要があることから、「b」評価とします。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
子ども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	53	143	150(R6)		
川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	2,432	1,765	1,600(R6)		

1	取組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>文化財資料館及びキリシタン遺物史料館で、感染症対策を取りつつ団体見学を再開するなどコロナ禍で中止していた活動を徐々に再開させるとともに、文化財資料館内に開室した郷土史料室では地域の文献史料の収集・整理・保存・活用を進めました。埋蔵文化財については発掘調査で出土した遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めました。一方テーマ展見学者数は減少しましたが、これは開館以来固定化されていた常設展示のリニューアルに伴い、既存事業を活用しながら講演会や他のイベントを縮小して実施したことによる一過性のものです。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、コロナ禍前の活動の再開に向けてより一層取組を推進する必要があるため「b」評価とします。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	4,151	1,886	2,500人 (R5)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が生まれています。また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持つブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	茨木市の文化的特性を活かした取組に関しては、川端康成文学館について感染対策を講じつつ創意工夫のもと開館し入場者は大きく増加しただけでなく夏休み企画展も多くの方が訪れるなどwithコロナを念頭においた取組を進めました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、より多くの方に文学に興味・関心を持ってもらう事業を実施する必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
川端康成文学館入場者数	人	↗	4,336	9,334	9,000 (R6)		
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	369	627	1,000 (R6)		

#### 4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	国立民族学博物館 出口 正之 名誉教授
2	意見等	<p>おにクル開館直前にあって、文化振興ビジョンの精神をしっかりと生かしながら、着実に政策を実行している。自己満足に陥ることなく、冷静に現在の課題も把握しており、総合評価「B」は以下のような理由から妥当である。3-3-1については、コロナに関連して大学との連携が難しい中、文化振興補助制度を利用した市民サイドの自発的な取り組みがうまくいって「b」評価は妥当である。3-3-2については、おにクル開館前のイベントが充実し、市民の間に盛り上がりが見られる。コロナの状況が少し改善していたとはいえ、必ずしも正常な状態といえない中で、市立ギャラリー入場者数も文化振興イベント参加者数も約5割増しの成果を上げており、「a」評価も妥当である。3-3-3については俳句コンクールについては、社会的な俳句ブームがある中でもう少し応募が伸びてもよかったのではないかとと思うが、美術教室「maru」の通念による実施など、丁寧な展開を行っているので「b」評価で妥当である。</p> <p>3-3-4については、団体見学を再開し、コロナの影響が少なくなっていること等入場者増加要素もある中で、入場者数を大幅に減らしているが、「一時的な要因」とする根拠に説得力がなく、「b」は過大評価過ぎる。もう少し現状を冷静に把握した上で今後の施策にあたるべきであろう。3-3-5については、川端康成文学館の入場者が大幅に増加していることから、「a」評価としてもよいのではないかと。</p>